

## 2012年3月期 連結決算について

2012年3月期(2011年度)連結決算は、東日本大震災等の影響により前期比「減収減益」

2013年3月期(2012年度)連結業績予想は、東日本大震災等の影響からの回復、本邦LCCの新規就航などにより前期比「増収増益」の見通し

## 1. 航空取扱量について

区 分	2010年度	2011年度	増減①		2012年度	増減②	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
航空機発着回数(万回)	19.1	18.7	△0.4	97.8	21.5	2.8	114.7
航空旅客数(万人)	3,252	2,885	△367	88.7	3,469	584	120.2
航空貨物量(万トン)	207	193	△14	93.3	190	△2	98.7
給油量(万kl)	468	426	△42	91.0	454	29	106.7

## (1)2011年度の実績【増減①】

- 上期は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、航空機発着回数、航空旅客数、航空貨物量及び給油量いずれも前年同期に比べ大幅に減少。
- 下期は、東日本大震災等の影響からの回復の動きや円高による日本人旅客の回復、新規本邦航空会社の国内線就航もあり、航空機発着回数、航空旅客数、航空貨物量は前年同期を上回るどころまで回復。給油量もほぼ前年同期並に回復。
- 通期では、航空機発着回数、航空旅客数、航空貨物量及び給油量いずれも前期に比べ減少。

## (2)2012年度の見通し【増減②】

- 航空機発着回数及び航空旅客数は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響からの回復、航空会社各社の増便、本邦LCCの新規就航等により前期を上回る見通し。
- 航空貨物量は、欧州債務危機を背景とした世界経済の減速等により回復は鈍く、ほぼ前期並み。
- 給油量は、従来からの航空機の小型化により機当たりの給油量は減少するものの、航空機発着回数増加により総量は前期を上回る見通し。

## 2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	2010年度	2011年度	増減		2012年度	増減	
	実績	実績	金額	%	予想	金額	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
営業収益	1,878	1,735	△143	92.4	1,884	148	108.6
営業利益	320	213	△106	66.6	309	95	144.9
経常利益	234	131	△102	56.1	234	102	178.0
当期純利益	99	35	△63	35.7	126	90	354.4

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

## (1) 経営成績の概要

営業収益は 1,735 億円（前期比 143 億円の減少）、営業利益は 213 億円（同 106 億円の減少）、経常利益は 131 億円（同 102 億円の減少）、当期純利益は 35 億円（同 63 億円の減少）の「減収減益」

- 営業収益：前期比 143 億円の減収
- 営業利益：前期比 106 億円の減益
  - ▶ 空港運営事業：航空機発着回数及び航空旅客数は、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により減少、給油量は、航空機発着回数の減少に加え従来からの航空機材の小型化傾向の進展等もあり減少、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、給油施設使用料収入いずれも減少。営業収益は前期比 7.2%減の 977 億円。収益の減少により 15 億円の営業損失（前期は 47 億円の営業利益）。
  - ▶ リテール事業：航空旅客数の減少により、子会社の物販・飲食収入及び一般テナントからの構内営業料収入が減少。営業収益は前期比 12.0%減の 440 億円。営業利益は前期比 20.6%減の 113 億円。
  - ▶ 施設貸付事業：事務室の返還等により土地建物等貸付料収入が減少。営業収益は前期比 4.9%減の 293 億円。営業利益は前期比 12.6%減の 115 億円。
  - ▶ 鉄道事業：2010 年 7 月の成田スカイアクセス開業に伴い、通期で線路使用料収入が得られたこと等から、営業収益は前期比 48.9%増の 23 億円。営業損失は前期の 302 百万円から 271 百万円改善し 31 百万円。

## (2) 財政状態の概要

- ▶ 資産合計は、年間発着回数 30 万回への空港容量拡大に向けた施設整備による資産の増加があったものの、減価償却が進んだことによる固定資産の減少等により前期末比 3.5%減の 9,025 億円。
- ▶ 負債合計は、社債の償還等により前期末比 4.8%減の 6,662 億円。有利子債務残高は、前期末比 3.7%減の 5,362 億円、平均金利は前期末比 0.10 ポイント低下し 1.39%。無利子債務を加えた長期債務残高は、前期末比 5.0%減の 5,971 億円。
- ▶ 純資産合計は、前期末比 0.3%増の 2,363 億円。自己資本比率は、前期末の 24.2%から 25.2%へ増加。

## (3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは 350 億円のキャッシュ・イン：前期比 113 億円の減少
  - ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、物販・飲食収入、構内営業料収入が減少したこと等から前期比 177 億円減の 528 億円のキャッシュ・イン。
  - ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資のための支出が減少したこと等から前期比 64 億円減の 177 億円のキャッシュ・アウト。

## (4) 2012 年度の連結業績予想

営業収益は 1,884 億円（前期比 148 億円の増加）、営業利益は 309 億円（同 95 億円の増加）、経常利益は 234 億円（同 102 億円の増加）、当期純利益は 126 億円（同 90 億円の増加）の「増収増益」の見通し

- ▶ 東日本大震災等の影響からの回復、航空会社各社の増便、本邦LCCの新規就航等により航空取扱量が前期を上回る見通しであることから、増収増益を予想。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

以上